

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第1部門第2区分
 【発行日】平成19年12月27日(2007.12.27)

【公表番号】特表2007-509684(P2007-509684A)
 【公表日】平成19年4月19日(2007.4.19)
 【年通号数】公開・登録公報2007-015
 【出願番号】特願2006-537474(P2006-537474)
 【国際特許分類】

A 6 1 M 16/04 (2006.01)

A 6 1 B 1/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 M 16/04 Z

A 6 1 B 1/00 3 3 4 D

【誤訳訂正書】
 【提出日】平成19年10月29日(2007.10.29)
 【誤訳訂正1】
 【訂正対象書類名】明細書
 【訂正対象項目名】0007
 【訂正方法】変更
 【訂正の内容】
 【0007】

使用者がエアロゾルの照準を合わせることができるようにした偏向性の先端を有する装置もあるが、それらはヒンジ式先端を曲げるために機構的リンクを必要とする設計に依存している。それらは機構上の複雑性が関わってくるために製造が高価になりやすい。

【誤訳訂正2】
 【訂正対象書類名】明細書
 【訂正対象項目名】0021
 【訂正方法】変更
 【訂正の内容】
 【0021】

図1から3の実施形態とは異なり、図4から7のシステム60では、ねじ装置のねじ82と導入器68に取り付けられたねじ付きアダプタ66の相補的に噛み合うねじとの協働により、カテーテルの事前に成形された先端74の長手方向運動と回転が組み合わせられて渦巻き又は螺旋パターンになりうる。使用者は、ノブ84を回すことによりねじ82を回転させて、カテーテルを体腔12内で長手方向に移動及び回転させることが可能である。ねじ装置62のねじ82とノブ84はカテーテルシャフト64に固定的に取り付けられており、カテーテルが、ねじ装置62によって回転し長手方向に動くようになっているのが望ましい。ノブとねじを使ってカテーテルシャフトの近位端を回転させると、導入器外鞘内でカテーテルが前進又は後退し、ねじの螺旋運動に従って湾曲した先端の向きが変化する。これにより、目で確認する必要無しに、カテーテルが螺旋運動しながら体腔を出入りするにつれて、体腔内でエアロゾルの均一な球形パターンを作り出すことができるようになり、体腔内部の正確な被覆の反復可能性を改善することができる。他の実施形態では、ねじ装置62とねじ付きアダプタ66の機能的要素は、挿入装置68の一部として形成してもよいし、挿入装置68内に嵌め込んでもよい。導入装置とカテーテル調整手段の上記各実施形態は、金属要素、プラスチック要素、又は金属とプラスチック要素の組み合わせ、又はその他適した材料で製作することができる。

【誤訳訂正3】
 【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】 0 0 2 3

【訂正方法】 変更

【訂正の内容】

【0 0 2 3】

物質を体腔まで届けるためのカテーテル又は他の管を操作するためのシステム 1 0 0 の別の実施形態を、図 8 と 9 に示している。この実施形態では、カテーテルの先端 1 1 0 でノズル 1 0 9 を出たエアロゾルは、図 1 から 3 の実施例のようにカテーテルのノズルの長手方向及び水平方向位置を別々に操作する必要無しに、また図 4 から 7 の実施例に示したような長手方向移動及び回転が可能なノブを使用すること無く、体腔内で球状パターンに向けられてもよい。図 8 と 9 のシステム 1 0 0 では、カテーテル 1 0 2 の近位端近くに設けられた 1 つの長手方向に固定されたノブ 1 1 8 を使用者が回転させると、これに応じて、操作装置 1 1 4 のギヤ機構が、ノズルの長手方向及び水平方向の位置取りを同期させて、球状に広がったエアロゾル噴霧パターンを作り出す。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】 明細書

【訂正対象項目名】 0 0 2 6

【訂正方法】 変更

【訂正の内容】

【0 0 2 6】

カテーテルと導入器針又は他の導入装置の間には、固定式又はばね仕掛けの後退可能な外鞘が同軸に設けられてもよい。この外鞘は、導入装置に対して回転及び／又は軸方向移動が可能である。図 4 から 6 に示す螺旋ねじ装置は、この外鞘と導入装置の間に組み込まれている。これにより、外鞘の端に対する先端の偏向の度を一定に維持しながら、体腔内でカテーテルを前進又は後退させることができるようになる。これにより、先端の偏向をどの程度にでも実現できる能力が得られるようになると同時に、カテーテルの先端を入口ポートからの距離が異なる様々な位置に配置できるようになる。これにより、エアロゾルの噴霧煙を体腔内の何れの面、例えば限定するわけではないが、腔部の入口側などに向けることもできる柔軟性が得られると同時に、エアロゾルノズルの当該面からの距離を変化させることもできるようになる。これは、ノズル近くでは、エアロゾルの力が大きくなり、集中性が増し、幅の狭いパターンで放出されるので、有用である。エアロゾルがノズルから遠ざかるにつれて、パターンは拡散し、力は穏やかになる。この調整方法は、或る特定の領域に強力なエアロゾルを選択的に適用しようとする場合、例えば、カスを洗い流す場合や器具入口ポート側を重点的に被覆しようとする場合に有益である。代わりに、この調整方法で図 4 から 6 の要素と図 8 と 9 の要素を組み合わせ調整なしに使用して、傷つきやすい組織を狙う場合に、より穏やかで更に拡散させたエアロゾルを塗布することができる。

【誤訳訂正 5】

【訂正対象書類名】 明細書

【訂正対象項目名】 0 0 2 7

【訂正方法】 変更

【訂正の内容】

【0 0 2 7】

図 1 0 と 1 1 に示す更に別の実施形態では、位置決めストリング又はワイヤ 1 7 2 を使用したシステム 1 7 0 は、カテーテル 1 7 6 の先端 1 7 4 のノズルの方向を調整する能力を更に高めることができる。可動テンションワイヤ又は部材 1 7 2 は、カテーテル又は器具シャフト内に収納されていて、近位端から入り遠位端に向かって或る位置で出るようになっていてもよいし、カテーテル又は器具シャフトの外に配置されていて、カテーテルシャフトと平行に導入装置を通して伸張していてもよい。カテーテルシャフト又はカテーテル先端は、やはり湾曲形状又は真っ直ぐな形状に事前に成形されていて、直線状の又は弾性を有するワイヤ又は部材 1 7 2 を内部で前進又は後退させることにより偏向させること

ができる。このように、本実施形態では、導入針 178 又は他の型式の外鞘をてこととして活用するためにカテーテル全体の長手方向の位置を調整する必要無しに、カテーテルの先端を偏向させることができる。図 10 に示すように、可動テンションワイヤ又は部材 172 は、カテーテルの遠位端でノズルに隣接して取り付けられてもよい。導入装置 180、弁 182、及びカテーテルアダプタ 184 は、図 1 から 3 の実施形態で説明したものと同一である。